

公共図書館における憲法改正に関する書籍の所蔵調査

田村優大

背景

公共図書館の資料収集は公正公平といえるのか。特に多様な価値観や意見のあるテーマについての蔵書について、図書館の自由に関する宣言では多種多様で中立的な蔵書を構築することが求められている。しかしこの宣言が実際の公共図書館で守られない可能性がある。仮に蔵書に極端な偏りが発生しているならば、公共図書館の社会からの批判は避けられず、その信用が低下する恐れがある。また憲法改正というテーマは日本国憲法が発足してから長らく、政治の場で議論されているテーマといえる。

目的

本研究の目的は、多様な価値観のある、対立する意見のある書籍として憲法改正関連書籍の所蔵調査を行う。その所蔵状況について明らかにすることで、憲法改正関連書籍の内容における所蔵バランスを明らかにし、さらに所蔵されやすい書籍の特徴を明らかにする。さらに、憲法改正関連書籍の所蔵状況と国政選挙の投票傾向との関連も調査する。

方法

憲法改正関連書籍を選定し、憲法改正に賛成、反対、中立の立場に分類する。その書籍群を、カーリル API を用いて所蔵調査を行う。また、憲法改正に積極的な政党への投票率と賛成本の所蔵割合との関連を県ごとで比較する。

結果

書籍の立場からは、中立な書籍が賛成、反対と比べて所蔵されやすいことが示された。また、書籍の知名度、需要の高さを示す指標は、中立な書籍であることより所蔵に強く影響を与えることが示された。反対本の割合が突出して多い地方自治体がいくつか見られた。また、一定程度、憲法改正に積極的な政党への投票率が高い県は賛成の書籍を所蔵されやすく、県の人口が少ない傾向にあることが示された。

考察

憲法改正関連書籍における所蔵は、中立の立場の書籍や、利用者にとって需要の高い書籍、憲法改正に賛成、反対それぞれの利用者意識に沿った書籍が置かれやすい傾向にあり、利用者サービスを強く意識した蔵書構成になっている。

(指導教員 池内敦)